

平成 30 年 11 月 22 日

加西市議会議長 衣笠利則 様

建設経済厚生常任委員長 松尾幸宏



建設経済厚生常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

- 1 日 程 平成 30 年 11 月 7 日（水）～8 日（木）
- 2 視察先 社会福祉法人邑元会しびらき（埼玉県さいたま市）
埼玉県春日部市
- 3 参加者 松尾幸宏、原田久夫、井上芳弘、植田通孝、衣笠利則、森田博美、森元清蔵
後藤光彦（議会事務局随行）
- 4 視察内容等
 - ◇社会福祉法人邑元会しびらき（埼玉県さいたま市）（11 月 7 日（水） 13：15～15：15）
（視察項目）障がい者の就労支援の取り組みについて
（視察対応者）しびらき 相浦副理事長兼施設長、千代田係長、鈴木店長、高坂店長
（内 容）別紙のとおり
 - ◇埼玉県春日部市（11 月 8 日（木） 10：00～11：30）
（視察項目）春日部市シティセールス戦略プランについて
（視察対応者）総合政策部シティセールス広報課 浜島課長、萩原主幹、河西主査
かすかべ未来研究所 長友主幹、浅井主査
議会事務局 白子事務局長、杉浦主事
（内 容）別紙のとおり
- 5 所 感 各委員の所感は別紙のとおり

視察社会福祉法人邑元会しびらき【埼玉県さいたま市】

視察項目 障がい者の就労支援の取り組みについて

1 運営施設の概要

障害者支援施設しびらき（平成14年6月に開設、入所者50名、ディサービス30名、就労継続支援（B型）10名）が下記事業所を運営

※就労支援事業所しびらき通り商店街（就労移行支援、就労継続支援B型）

- (1) ベーカリーカフェしびらき（平成25年5月）
- (2) しびらきファーム（平成29年1月）
農林水産省6次産業導入型福祉農園モデル事業
- (3) Hitotsuひとつながるカフェ（平成29年7月）
- (4) ぴっかぴあ（平成27年10月）
- (5) ファクトリー他（平成29年）

2 就労支援事業所の内容

地域との共存をめざした就労支援として商店街の名前「新開」をそのまま事業所名「しびらき」にし、地域住民との共存を打ち出し商店街の空き店舗に「ベーカリーカフェしびらき」「ひとつながるカフェ」をオープンしている。また、遊休農地を利用した6次産業として「しびらきファーム」でいちごビニールハウス、シイタケビニール栽培、農園での野菜栽培などを行い、ベーカリーカフェしびらき、ひとつながるカフェで販売している。イチゴハウスは、いちご狩りと地域とのイベント開催により交流している。

また、利用者は事業所に専属ではなく選択して働くことができる。

(1) ベーカリーカフェしびらき

元自治会長所有の空き店舗を改装して営業している。山崎製パンとの業務提携し、地域の子ママさんスタッフとともに利用者と製菓学校卒業生の店長で営業している。

外部販売先の開拓とともに移動販売を開始し他事業所から注文を受けている。

店内には、椅子席もあり地域との交流の場となっている。

(2) Hitotsuひとつながるカフェ

ベーカリーカフェしびらき店舗前の道路を挟んだ築50年の空き店舗を改築し平成29年にオープンした軽食喫茶店である。

利用者が、1階では地域のコミュニティカフェと直売所として地域の共存を目指し、2階ではしびらきファームで生産した作物を加工して商品化している。

(3) しびらきファーム

農林水産省の6次産業導入型福祉農園モデル事業として採択され、利用者は、このファームで、果物、野菜、草花、敷地内全体の清掃、整備など多くの仕事と地域との交流イベントに参加している。

観光農園施設として、イチゴハウス（648㎡、総工事費約2,600万円）で、イチゴの苗3800株を栽培し、いちご狩り、加工、販売を行っている。

また、シイタケ栽培ハウス（130㎡、総工事費約400万円）で収穫したシイタケを、しびらきのカフェやベーカリーで活用や販売している。

農園内には、野路栽培として、ブルベリーゾーン、野菜・お芋ゾーン、レジャースペースを設置し地域との交流を図っている。

また、今年から地域の協力により稲作にも挑戦している。

3 地域共生社会の実現のために

障がい者が住民とともにこの町で働き、暮らしていくと言えるために次のように考え実践している。

- ・この町らしい業種

 - 農福連携・6次化観光化、商店街活性化

- ・障がいへの住民の理解の醸成

 - 就労支援の現場を活かした地域交流、観光化、雇用の創出

- ・地域が抱える福祉的課題への貢献

 - 地域における公益的取組

埼玉県春日部市

視察項目 春日部市シティセールス戦略プランについて

1 経緯の概要

平成20年度、総合政策部政策課に「政策推進担当」を設置。合併3周年を記念して「春日部いろどり紀行」を作成、共栄大学と連携し春日部市のイメージ調査を実施。

以後、調査研究の中で、「シティセールスの取組が今後不可欠であり、シティセールスを進めていくためには統括する部署が必要である」という提言を受ける。平成25年度に総合政策部内に「シティセールス広報課」を新設した。

平成25年度策定の「戦略指針」、平成26年度策定の「アクションプラン」の2つから成る「第1次春日部市シティセールス戦略プラン」をもって、平成27年度より本格的なシティセールス活動を展開している（現在は平成29年度策定の第2次プラン）。

2 シティセールスの推進体制

- (1) 平成30年度の、シティセールス広報課の人員配置は課長以下7名である。
- (2) かすかべ+1（プラスワン）サポーターを市民、団体、企業をから募集し、情報発信・イベント参加等、可能な範囲でのシティセールス活動の実施をお願いしている。
現在、企業サポーター94団体、個人サポーター51名の登録がある。また、企業・関係団体・有識者・メディア・行政によるシティセールス戦略意見交換会を当初は年に2～3回、現在は年に2回開催している。

3 春日部市シティセールス戦略プランの概要及び具体的な取り組みについて

(1) 概要

市民が春日部を「わたしたちのまち」と誇りを持ち、まちへの愛着を育む事を目指す（シビックプライドの醸成）。そして、まちの良さが中から外に伝え広がっていくことで、市外の人からも行ってみたい、住んでみたいと「選ばれるまち」になることを目指している。

具体的事業などを示す行動計画（アクションプラン）は、市民・関係団体と市とが意見交換を通じて策定した。

(2) 具体的な取り組み

- ①市の花でもある藤（フジ）の様々な情報や知識をマニュアルにまとめ、藤（フジ）の相談専用窓口を設置した。
- ②市民参加型の演奏会、かすかべ音楽祭「プラス・ジャンボリーin かすかべ」を毎年11月3日に開催している。
- ③講師として写真家の山本まりこさんをお迎えし女性20名を対象に川・水辺撮影ツアーを開催した。
- ④まちの中にある公園を子供の創造性を伸ばす場とするため、地域の人意見をもとに公

園のリニューアルを進めている。

- ⑤文部科学大臣賞や埼玉県教育委員会教育長賞を受賞したおいしい学校給食をたくさんの人に知ってもらうため「クックパッド」にレシピを掲載した。また、栄養士会を講師として学校給食のレシピを活用した親子料理教室を開催した。
- ⑥春日部の伝統工芸品の麦わら帽子を、藤まつりや夏まつりでかぶったり、ランドセルカバーにモチーフを取り入れたりしてPRしている。
- ⑦毎年5月に開催の「大凧あげ祭り」に合わせて、市内各所に凧のデザインを取り入れたのぼりを飾っている。また、市役所内の課名プレートを凧で製作している。
- ⑧地場野菜等をたくさんの人に広く知ってもらうために地産地消料理教室を開催している。
- ⑨シティセールスの為のシンボルマークを公募し活用すると共に、専用ホームページを開設し、画像や動画などを通じて春日部の魅力や年間イベント、暮らしやすさを紹介している。

4 課が独自で取り組んでいるシティセールス関連業務

- (1) 市民（団体）による、地域力を高め地域の活性化となる活動に対し、補助金を交付する。
- (2) 春日部市の魅力を世界に発信してもらうことを目的に、市にゆかりのある、各分野で活躍している著名人の方に親善大使を委嘱している（現在11名）。
- (3) 旧町が合併した10月1日を「春日部市民の日」として制定し、市民同士の一体感や共感をはぐくみながら、春日部市の将来のまちづくりを考える日としている。
- (4) 親善大使でシンガーソングライターの「あえかさん」が作詞・作曲の春日部市の歌「心の空」を制定し活用している。
- (5) 春日部市の文化、歴史、自然、暮らしなどを深く掘り下げ、それらの由来や関わった市民にスポットを当てた人間模様を紹介した、まちの情報誌「kasukabe+」（かすかべプラス）を発行した（現在10号まで発行）。
- (6) 春日部市を舞台にしたアニメ「クレヨンしんちゃん」一家を平成16年に旧春日部市の市制施行50周年を記念して特別住民登録し、「子育て応援キャラクター」、「まちの案内人」として広報活動で活躍中である。
その他絵はがきセット、コミバスのラッピング、市ホームページキッズページ等にキャラクターを活用している。

5 第2次春日部市シティセールス戦略プラン

- (1) 第1次戦略プランを検証したところ、市内向けのPR活動については、課題が残る部分がありつつも、事業を一つずつ丁寧に実施してきたことで一定の効果を上げている。今後は市外向けのPRを意識した戦略へと発展させていく必要があるとの方向性のもと、下記をターゲットに設定した第2次春日部市シティセールス戦略プランを平成29年12月に策定した。

- ① 20～40歳代（特に女性）
- ② 賃貸居住者
- ③ 未就学児を扶養もしくは夫婦のみの世帯
- ④ 安心（医療・災害への対応）を求める方
- ⑤ 地域との繋がりを望んでいる方
- ⑥ 春日部市内に親世帯もしくは親戚が居住している方
- ⑦ 埼玉県・東京都・千葉県在住者や通勤・通学環境を同じくする他都県在住者

(2) ブランドメッセージとして第1次戦略プランにおいては、『ホッとする住みごこち+1』を設定したが、第2次戦略プランにおいては、「このまちには、小さなお子さんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、三世代を幸せにする、ちょうどいい暮らしがある。」として、『三世代がつながるまち』を市外向けPRの為のブランドメッセージとして加えて、下記の取り組みを進めている。

- ① 電車車両・首都圏主要駅やインターネットにおける広告の掲出
- ② フリーペーパーやターゲット層が購読する雑誌等の媒体への広告掲載
- ③ 市内で宅地開発を行っているハウスメーカーと連携したプロモーション活動
- ④ シティセールス専用サイトやウエルカムガイド「春日部で暮らそう」のリニューアル
- ⑤ 観光情報誌の（タイアップ小冊子）の発行
- ⑥ 「春日部の良いところ」を伝えるSNSアカウント（インスタグラム等）の開設
- ⑦ 転入者へのインタビューによる「移住ストーリー」の紹介（平成31年度移行実施予定）
- ⑧ 魅力発見ツアーやワークショップ等、まちの雰囲気を実際に味わえる企画の実施（平成31年度移行実施予定）

行政視察所感

松尾幸宏

社会福祉法人邑元会しびらき（埼玉県さいたま市）

障がい者の就労支援の取り組みについて

就労支援施設として、障がい者入所施設のすぐ前に、いちご・椎茸の栽培を行う「しびらきファーム」がある。又、歩いて移動できる場所に、旧の商店街の名を使った「しびらき商店街」がある。商店街には現在パンを販売する「ベーカリーカフェしびらき」とその向かいにコミュニティカフェ「Hito-tsu ひとつながるカフェ」がある。

いちご狩りは盛況のようで根元に水道水を流し、収穫の回数を増やす努力もされている。また、地元の方もシャッター通りとなった商店街に、おいしいパン屋さんやカフェが来て喜んでおられると聞く。部屋で作業をする就労支援施設と違い、お客様と接する機会も多く、入所施設とショップとの往復の機会にお客様や市民の方とのふれあいがあり、正に障がいのある人と住民が共存し当たり前のように交流する、理想的な福祉のまちづくりが行われていると感じた。

また、施設長を始め職員の方々が明るく生き生きと、楽しそうに障害者福祉に取り組んでおられるのが印象に残った。

埼玉県春日部市 シティセールス戦略プランについて

何よりもアニメ「クレヨンしんちゃん」のイラスト入りの看板がまちの至る所でみられ、市役所庁舎1階に記念撮影のブースがあるなど、正に「クレヨンしんちゃん」の聖地となっているのが春日部市の強みである。平成27年度から本格的なシティセールスを行い、平成29年12月には第2次となる「シティセールス戦略プラン」を作成された先進市である。

具体的な取り組みについては春日部市の歴史・風土を反映するものもあり一概に加西市に当てはめることはできないが、市にゆかりの著名人にまちの魅力を発信していただく親善大使の任命や、市民の日を制定し、民間団体や企業が将来のまちづくりを考える啓蒙活動の機会を創るといのは参考になる。

加西市においても平成29年3月に「加西市シティプロモーションビジョン」を策定しているが、体制の確立として、春日部市も行っているシティセールスに賛同する市民・団体・企業によるサポーター制度は早急に取り組むべきである。春日部市では現在、企業サポーターが94団体、個人サポーターが51名が登録されている。

4月の機構改革で「きてみて住んで課」が出来、加西市も本格的にシティプロモーションに取り組みだした。個人的には「イーナカサイ」のホームページは画面の色合いやYouTubeを利用して視覚・聴覚で加西市をアピールするのは先進的であると感じた。

これからは、シティセールスに関する全部署が連携して、市民・団体・企業のサポーターと共に加西市の「シティプロモーション」に邁進することが地域の活性化を呼び込み、延いては人口増に繋がっていくと考える。

所 感 原田久夫

社会福祉法人邑元会しびらき【埼玉県さいたま市】

障がい者の就労支援の取り組みについて

最初に地元の協力により商店街にオープンした就労支援事業所の「ひとつながるカフェ」内で施設長から「人と人の実践・地域との共存した就労支援」の取り組みについて説明を聞き大変参考になりました。

説明場所がカフェ内でもあり利用者の方が笑顔で仕事に取り組んでいる姿が印象に残り意義ある視察であった。

次に「ひとつながるカフェ」の前にオープンしている地域との共存として第一号店就労支援継続 B 型「ベーカリーカフェしびらき」を見学しましたが、利用者の方がパンの仕込みから製造販売及び接客のできるレジ係になりたいと自分で取り組んでいる環境作りの大切さと担当者の理解が重要と感じた。

最後に、6次産業導入型福祉農園の「しびらきファーム」を視察しましたが、観光農園として良く整備された施設で、また、地域とのつながりを目的にレジヤースペースもあり色んなイベントにも取り組んでいる。

利用者のための施設として、仕事のしやすいスケジュールを作り自主的に取り組んでいる姿、物を育てる事の大切さと成長した時の利用者の笑顔が素敵だと聞き素晴らしい取り組みと感じた。

【埼玉県春日部市】春日部市シティセールス戦略プランについて

春日部市と加西市とは、人口、産業、観光、自然環境など当然異なるが、シティセールスは共通の重要課題である。

春日部市は、平成20年度から総合政策部政策課に「政策推進担当」を設置し、イメージ調査から始まり平成23年度に未来研究所を新設、平成25年度に本格的にシティセールス広報課を設置し、早くからシティセールスに取り組み、平成27年度から本格的に活動を開始、その後第2次戦略プランを作成し「三世代がつながるまち」として継続的に事業に取り組み、行政の組織再編による一元化した活動を行っている。

平成29年度には、第1次プランの見直しとして市民の意識調査を行い8つの魅力の取り組み内容、取り組み結果・成果の検討を行い第2次戦略プランに反映させ活動している。

加西市も「三世代から選ばれるまち」「住みたいまち」として地域力アップの発掘、年齢層に合わせたセールスポイントの作成により、加西市シティプロモーションビジョン「イーナカサイ」のスピードアップが必要と感じた。

建設経済厚生常任委員会行政視察所感

井上 芳弘

● 11月 7日 社会福祉法人邑元会（ゆうげんかい）しびらき さいたま市

障がい者の就労支援の取り組みについて

視察先の障害者支援施設しびらきは平成14年にさいたま市の新開（しびらき）地区に開設され、地域に根ざした就労支援が特徴です。

さいたま市は関東圏の中核都市として発展しています。施設所在地の新開地区は、荒川河川敷沿いの貴重な緑地空間として、また農業振興地域とされてきましたが、担い手の高齢化、後継者不足による遊休農地が増大。また商店街も空き店舗が増え、活気が失われてきていました。

「しびらき」では、障がい者が地域で働き、暮らすために、この遊休農地や空き店舗の活用による、働く場所、交流の場づくりがすすめられてきました。

空き店舗の活用では、平成25年にベーカリーカフェしびらき、平成29年には地域のコミュニティカフェをオープンしています。施設従業員は2施設で常勤7名、非常勤5名に対し就労支援(B)の利用者は11名となっています。職員や利用者家族の連携や地域住民、販売先としての他の社会福祉法人などの支援にしっかりと支えられていると感じました。商店街の活性化にも大きく貢献しているようです。

遊休農地の活用では、施設に隣接する約3000㎡の農地を借り受け、農林水産省のモデル事業として、いちごやしいたけのハウス栽培などを行い、福祉と農業の連携による事業がおこなわれています（しびらきファーム）。

この農園では、常勤5名非常勤6名の職員にたいし11名の利用者となっています。このファームで収穫された農産物は先の商店街でのカフェで加工販売され、新鮮なメニューとしても提供されています。観光農園としても運営されており、文字通り農福連携による農業の六次化として障がい者と地域住民の働く場、交流の場が実現していました。

どの施設も、職場や集う人たちの明るさが印象的でした。加西市でも、福祉施設による、農業の活用は行われていますが、農福連携のさらなる発展の可能性を感じました。

● 11月 8日 春日部市

春日部市シティセールス戦略プランについて

春日部市では、平成20年以後、市の広報についての調査研究が実施され、平成25年には、「シティセールスの取り組みが今後不可欠」として、総合政策部内にシティセールス広報課を設置。27年度より具体的な活動が展開されています。

平成26年度策定の指針には、市外の人から、選ばれる町になるためにも、まずは、市民が春日部を「わたしたちのまち」と誇りを持って認識し、まちへの愛着を育むことを目指すとされました。同年12月には市民や関係団体との意見交換を通じて、市の特徴でもある、8つの魅力を育てるプランがつくられ、市民を対象とする活動が展開され

ました。

この活動を通して、意識調査でも市民のまちへの愛着や定住意向も向上し、今後も市民向けPRの継続に加え、市外向けの展開をはかることが求められています。

2018年からの第2次プランでは、これまでの成果をふまえ、「交流人口の増加」「定住人口の増加」へとつなげるため、シビックプライドの醸成継続と市の強み、魅力を分析し、市内、市外の定住対象者を明確にして3世代に選ばれるまちを目指すとしています。

人口減少を迎えて、人口増施策というよりも、市の魅力を市民自ら内外に発信し、交流人口の増加、結果として定住促進をはかる施策と感じました。情報交流を行っている市外の個人も含めて交流人口としてさらに情報発信に努めようとされていることは重要です。

春日部市の第1次での取り組み後の市民アンケートではまちへの愛着度は75.9%という高い数字になっています。加西市でもわたくし自身自身がまちの歴史や自然、風土に愛着や誇りを持てるように工夫することは重要です。

また、地方自治体の役割は自治法にあるように、住民の福祉の向上であり、地道に責任をはたしていくことが、「3世代に選ばれるまち」につながるのではと改めて感じました。

建設経済厚生常任委員会先進地視察

「所 感」

植田 通孝

1. 社会福祉法人邑元会しびらき（さいたま市）

障がい者の就労支援の取り組みについて

さいたま市は、人口が127万人、首都東京から約20~40km圏内に位置し「さいたま新都心」を中心に関東圏の行政、経済、文化をけん引する中核都市として発展する一方で、この桜区「新開（しびらき）」地区は、産業都市・さいたま市における農業振興地域で、荒川沿いの都市と田園の交流拠点エリアであるが、従来からの小売商店等が廃業するなど商店街の活力が減退する傾向にあった。

そこで、障害者支援施設しびらきの敷地正面の遊休農地約3反を活用して、『しびらきファーム』を開園（平成29年1月～）、6次産業導入型福祉農園で、いちごの観光農園（章姫・紅ほっぺ3800株）、シイタケ栽培、ブルーベリー、サツマイモ等栽培に、障がい者の就労に資している。また、元自治会長所有の空き店舗を改装し、『ベーカリーカフェしびらき』を平成25年5月～開店、『わたしのまちのパン屋さん』として商店街の活性化に寄与している。そしてまた、『“Hitotsu”ひとつながるカフェ』を平成29年7月～開店し、しびらきファームで生産した作物の加工・商品化と地域のコミュニティの醸成に寄与している。その背後に、能力の高いすばらしい指導者がおられる。

この町らしく、働き、暮らす。だから、共生できる。

—しびらきの『農商福連携』—

2. 春日部市シティセールス戦略プランについて

春日部市は、東京首都圏近郊35km以内、通勤1時間の地理的に好条件の市である。にもかかわらず、人口減少時代の到来を危惧し対策を練っておられるのには、感服しました。平成25年から2年間で、「春日部市シティセールス戦略プラン（第1次プラン）」を策定され、まちに関わるたくさんの方が、春日部というまちを「わたしたちのまち」と自分のことのように意識し共感できるような場所にするため、市民が思う「8つの魅力」を磨き育てる取り組みを中心に、

市民の皆さんを主な対象とするシティセールス活動を展開してこられた。そして、人口減少に的確に対応し、将来にわたって活力ある地域を維持していくために、新たに第2次春日部市シティセールス戦略プラン（「第2次プラン」平成30年から5年間）を策定され、新たなブランドメッセージとして「三世代がつながるまち」を掲げ、三世代から選ばれるまちを目指されている。

——わたしたちのまち　そして　三世代から選ばれるまち　へ　—

首都圏近郊のクレヨンしんちゃんでも有名な、春日部市でさえ人口減少に危機感を持って対策に乗り出しているのを知り、地方の田舎の加西市も市民全てを挙げて汗をかく必要性を実感させられました。

〔所感〕 衣笠 利則

社会福祉法人邑元会しびらき（埼玉県さいたま市）

障がい者の就労支援の取り組みについて

障がい者の就労は障がいの個々により、適所の就労は難しく支援事業者も大変な取り組みだと思えます。そういったなかで、「農」への取り組みとシャッター商店街への大きな視線を注がれた活動には感心をしました。

最初に「ひとつながるカフェ」で昼食をいただき、就労支援の様々な取り組みの説明を聞き、積極的に話しかけておられる姿に感動をした。そしてパンの製造販売をされているところを見学させていただき、高齢者の方も自身で苦勞をされレジができるようになったお話を聞き、個々に目標を持った職場であると思えます。次に農業の現地を視察し、イチゴハウスと椎茸ハウスの見学をさせていただいた。育てることの楽しみ、収穫する楽しみも非常に成果が出ており、責任感も出てきていると説明されていた。今後加西市においても障がい者の就労支援の有り方として、「農」と「福」の考えていく必要があると思えました。トマトハウス、ぶどう等農業への取り組みも是非とも考えていただきたい。

埼玉県春日部市

春日部市シティセールス戦略プランについて

大都市近郊区間でありながら、人口減の傾向を踏まえ市民へのシティセールスを行い、5年前から取り組みをされた。更なる取り組みとして「三世代がつながるまち」として戦略プランが平成29年より進められている。

市政、そして様々な取り組みを広報だけではなく具体的に、わかりやすく、写真や絵などを取り入れ市民が感心を引くような形の物にされているのが大変印象的だった。又、子育て、交通アクセス、住宅等の魅力もプラス1として紹介されている。広報課の組織も大変充実しており、総合政策部の中にシティセールス課を新設し多くの職員が配置されていた。

春日部市が行っている様々な取り組みは、早速結果は出ないと思いますが、交通アクセス、住宅条件等から見ても都市圏から近い事もあり、大変良い取り組みだと思えました。加西市においても、住みたくなる町、住んで良かった町への積極的なセールスを進めていきたいと思えます。

【社会福祉法人邑元会しびらき：さいたま市】

障がい者の就労支援の取り組みについて

- ・平成 29 年 6 月に「しびらき通り商店街」（就労移行支援 6 人、就労継続支援 B 型 24 人）を設立し、5 つの事業所を統括して運営されている。利用者がどの事業所で働いてもいいようになっていて、就労の場が多く確保されていて素晴らしい。加西市では、B 型事業所は多くあるが横のつながりはないので、改善していければと思う。
- ・「ベーカリーカフェしびらき」や「ひとつながるカフェ」は、地域の活性化につながっているし、利用者も地域の人とうまく触れ合っているようで、理想的な福祉のまちづくりが進んでいるように感じた。常に地域住民との共存、地域貢献を目指されてきた結果であると思う。
- ・「しびらきファーム」では、いちごのビニールハウスを中心に、6 次産業導入型福祉農園事業が実施されている。いちごの出荷だけでなく、いちご狩りが楽しめる観光農園として付加価値を付けている。福祉農業については、加西市においても取り組んでいければいいなと思う。

【春日部市】春日部市シティーセールス戦略プランについて

- ・第 1 次プランでは、人々や事業所から選ばれるまちの実現に向けて、まず市民が春日部のことを誇りとし、まちへの愛着を育むことを目指して作成されている。市民との意見交換で 8 つの魅力を設定し、具体的な取り組みがなされ成果をあげている。市民自らが市の良さを知り誇りを持ってこそ、外に向かってアピールできる。加西市は、多くの魅力点があるが整理されず漠然としていて、まちへの愛着までいっていないと思う。市民と共に魅力を語り合って、誇りが持てるところまで取り組みをしていく必要がある。
- ・2018 年からの第 2 次プランでは、第 1 次プランの市内での愛着や誇りを育みながら、市外に向けて人をまちに引き寄せる PR 戦略をたてている。企業のマーケティング手法を取り入れて、ターゲット層の行動や意識に対応した施策が計画されている。こうしたカスタマージャーニーマップに基づく緻密な施策展開は、加西市でも取り入れたらと思う。

①社会福祉法人邑元会（ゆうげんかい）しびらき〔埼玉県さいたま市〕
『障がい者の就労支援の取り組みについて』

障害者支援施設しびらきの『農福連携』の事業を視察したが、立派なすばらしい取り組みに感動し、事業所運営のスタッフと事業所利用者がまさに生き生きと就労し接客している姿はすばらしいし見事にさえ見えた。地元の空き店舗でベーカリーを開店、続いて、遊休農地を活用してファームを開園、さらにベーカリーの道向かいの空き店舗を改装してカフェを開業。ファームの生産品を加工して商品化、それを地域のコミュニティカフェ等で販売している。

そのカフェで昼食を取り、事業の説明を聞き、その後各事業所を見学した。『ひとつながるカフェ』の食事の材料はすべてにこだわりの地元産と地元加工品で、味よし価格よし、カフェの雰囲気よし、とにかく事業の取り組み説明を聞くまでもなく、スタッフ全員が一生懸命に接客されてた。

地域の人達が障がい者の働く姿を見て理解が深まり、利用者は自分の任務に懸命に努力、事業所職員は利用者の活躍が最大限に発揮できる工夫と努力、三者が見事に関係を深めて生き生きと就労している姿は立派で見事と感じた。また、就労者の収入増のために工夫されたローテーションにも事業者の熱意が伝わった。我々も地域共生社会、障がい者が住民と共に地域で働き暮らしていける町づくりを目指していきたい。

②埼玉県春日部市『春日部市シティセールス戦略プランについて』

H20年に政策推進担当を設置して取り組み開始、年を重ねて情報館の設置、春日部ブランド担当の設置、庁内シンクタンクとして『かすかべ未来研究所』を設置して広報戦略の調査研究の結果、統括する部署の必要性を確認して『シティセールス広報課』を新設、戦略指針とアクションプランを策定して本格的な活動を展開されており、先進的な自治体と考える。シビックプライドの醸成の取り組みなど大変参考になった。

企業、有識者、関係団体、メディア、行政で戦略の意見交換会を年間3～4回開催してアクションプランをまとめ8事業の取り組みを展開して地域や町の魅力を育てる取り組みが進められ学ぶ点が多い。また、市民や団体が取り組む地域活性化となる活動には、単年度と複数年度の2つの補助金が用意され、春日部を元気にする事業を支援している。これまで、まちの情報誌も10号まで発行、文化や歴史や自然や暮らしと関係者の人間模様を掲載して春日部市を紹介している。テーマ毎の情報誌は、単独でも観光案内マップとなり参考になる。クレヨンしんちゃん一家は、市制50周年を記念して特別住民登録され、子育て応援キャラクターとして、また、まちの案内人として市の広報活動で活躍中であり、子供たちに大人気の助っ人は羨ましい限りだ。